

日本人間性心理学会第26回大会
ワークショップのご案内

ワークショップの開催要項

1. 日 時 2007年11月23日(金) 11:00~17:00(5時間)
2. 会 場 仁愛大学校舎
福井県越前市大手町3-1-1
3. 参加資格 本学会の名誉会員・正会員・準会員のほか、非会員のご参加も歓迎いたします。
4. 参加費 会員 8,000円
非会員(一般) 10,000円
非会員(学部学生) 5,000円
5. 申込方法 会員の方は、同封の郵便振替用紙(大会参加申込書)の所定の欄に希望するコースの記号(A、B、C...)を記入して送金してください。希望するコースの記号は希望順に3つまで記入できます。
非会員の方は、一般の郵便振替用紙に<口座番号 00740-4-57409 加入者名:日本人間性心理学会第26回大会準備委員会>を記入し、また、通信欄に希望するコースの記号を希望順に3つまで記入してください。
すべてを予約制とし、定員に達し次第締め切ります。
各コースとも先着順といたします。定員を超えた場合には、第2、第3の希望にまわっていただくこととなります。
受講していただくコースは、後日領収証と一緒にお送りする受講証でお知らせいたします。
6. 申込期限 2007年7月25日(水)が申し込み締切日ですが、先着順となりますので、お早めにお申し込みください。
なお、申し込み手続き終了後に参加を取り消されても参加費は返金いたしません。あらかじめご了承ください。ただし、代わりの方が受講されることは可能ですので、下記事務局の担当者までお早めにお知らせください。
また、定員超過で第3希望にもご参加いただけない場合は、改めてその旨をお知らせし、参加費は全額返金いたします。
7. 研修証明書 全時間受講された方には、そのコースの研修修了証明書を発行いたします。再発行はいたしませんので、大切に保管してください。
8. 問い合わせ 日本人間性心理学会 第26回大会準備委員会事務局
〒915 8586 福井県越前市大手町344 仁愛大学 人間学部 心理学科
日本人間性心理学会第26回大会準備委員会事務局
電話:0778 27 2010 FAX:0778 27 4990 Eメール:rinsho2@jindai.ac.jp

ワークショップの研修内容

A. 3タイプのエンカウンター・グループのファシリテーション(定員30名)

講師 野島一彦 先生(九州大学)

わが国では1970年にベーシック・エンカウンター・グループ(unstructured style)が導入され、1980年頃からは構成的エンカウンター・グループ(structured style)が実践されるようになり、近年は半構成方式エンカウンター・グループ(semi-structured style)が行われるようになっている。本ワークショップでは、これら3タイプのエンカウンター・グループのファシリテーションについて、講師がファシリテーターを務めた事例を紹介する。そして3タイプのファシリテーションをめぐる討論を行う。

ワークショップの進め方は、(1)エンカウンター・グループの基礎知識に関する講義、(2)ベーシック・エンカウンター・グループの事例の呈示と討論、(3)構成的エンカウンター・グループの事例の呈示と討論、(4)半構成方式エンカウンター・グループの事例の呈示と討論、(5)3タイプのファシリテーションをめぐる討論を行う。

B. 壺イメージ法の理論と実際(定員30名)

講師 田嶋 誠一 先生(九州大学)

壺イメージ法のポイントは、簡単にいえば、その人の内的イメージをひきだす、その身体感覚的な実感に注意を向ける、それを安全弁に配慮しながら進める、ということです。そのために、基本的には、心の中のことが入っているいくつかの壺または壺様の容れ物を浮かべ、次に入れそうな壺に入り、中の感じを味わい、そして壺の外へ出て蓋をする、入れそうにない壺には蓋をして適当な場所にしまうといったことを、それぞれの壺ごとに順次試みます。こんな簡単な技法で意外に思われるかもしれませんが、すでに様々な事例に効果が確認されています。

当日は、まず私のお話を聞いていただき、後は実習を織り交ぜながら行う予定です。

C. フォーカシングの実際は<人間性>心理学に何を示しているのか?(定員30名)

講師 池見 陽 先生(関西大学、The Focusing Institute Certifying Coordinator、同 Summer School 講師)

フォーカシングを知る人は増えてきているので、フォーカシングを紹介するだけでは筆者自身も物足りないと感じる。そこで、筆者のフォーカシングの実際を紹介し、その実際を通して、フォーカシングは心理学理論(とくに人間性心理学の理論)について、何を開示しているのかを参加者とのディスカッションの中で整理してみたい。たとえば、「自己/自己実現」「意識/無意識」「自己と他者」といった基礎的な諸概念はフォーカシングの実際と照合した場合、どう考えられるのか。ちょっとした体験あり、知的整理あり、創造的な理論化の試みあり、といった一日を過ごしたい。フォーカシングの実際を知りたい方、何となく興味がある方、フォーカシングと心理学理論を考えたい方の参加を歓迎する。

D. コラージュ療法 -制作と心理臨床への応用- (定員 30名)

講師 森谷 寛之 先生(京都文教大学)

コラージュ療法は、ちょうど今から20年前にふとしたきっかけから筆者が思いついた方法が発展したものである。しかし、コラージュとは、もともと美術の技法のひとつで、珍しい方法ではなく、むしろ、どこにでもある方法である。筆者以前にも、心理臨床の場に、コラージュを使っていた人が何人もいたことが今日では知られている。これらの人は、コラージュを心理臨床に使ってみたようである。すなわち、「美術のコラージュ制作→心理臨床へのコラージュ導入」の方向である。この方向を辿った人は、なぜか、不思議なことにそれ以上思ったほど発展させていないのである。

筆者は、これらの人とはまったく逆方向からコラージュ療法に行き着いたのである。このような発想を辿った人は、他に知らない。すなわち、筆者は砂箱などの設備がない場所でも箱庭療法ができるようにする方法を探していた。すなわち、「簡便で持ち運びができる箱庭療法」を模索していた。その時、箱庭療法の本質とは「自分で描いたり、作ったりしたものではないレディ・メイド(既製品)の組み合わせ」であるということに思い至ったのである。すなわち、平面の絵や写真を自由に組み合わせるだけでも、箱庭療法と同じ程度の効果を発揮するに違いないと思いついたのである。ワークショップでは、コラージュ療法の原点に立ち戻り、制作実習をして、その効果を確認していただき、その心理臨床への応用について解説を加えたい。

(切り抜き用の雑誌やパンフレットと糊、ハサミを持参して下さい。)

E. 色枠による家表現と時制と語り (定員 30名)

講師 酒木 保 先生(宇部フロンティア大学)

家族画を用いた治療技法であり、時間を操作したり、現実の家族について語ったり、それを修正したりするために工夫したものである。つまり描画を用いたナラティブセラピーと考えてよい。

F. 対人関係技能促進修練 (Social Skills Training) (定員 30名)

講師 福井 康之 先生(仁愛大学大学院人間学研究科)

エンカウンター・グループはグループダイナミックスを活用して個人の人格成長を促進する方法だといえる。しかし、これは最低2泊3日の集中合宿が必要である。時間、経費などのために参加困難な人たちに、時間的に分割し、内容を分散学習方式で集積していく方法で簡便化して人格成熟促進を企図してきた。実施容易にするため、ST(感受性訓練)の領域で開発されてきた「集中的グループ体験」の技法を導入し、大学の授業や対人関係の研修会で実施するため工夫改善した成果を、テキスト(『対人スキルズ・トレーニング』福井康之著 ナカニシヤ出版2007年4月刊 税込1,890円)を使って紹介する。

ワークショップでは、それらの成果について解説し、講師自身の開発した技法やお勧めのゲームのいくつかを実際に体験できるよう準備している。

なお、テキストは参加者全員に著者から無料で贈呈する。

仁愛大学へのアクセスは、ホームページ <http://www.jindai.ac.jp/> をご覧ください。